男女共同参画情報誌

りぶる さっぽろ

特集
LGBT
～多様な社会を目指して～

コラム
北海道大学大学院文学研究科教授
（ジェンダー・セクシュアリティ論）
瀬名波 栄潤 さん

2016 Vol. 41 春

私たちの世界

ＬＧＢＴは身近な存在です。この社会では異性を性愛対象とする人々が多数を占めますが、ＬＧＢＴとは性的少数者を総称して指す言葉です。「セクシュアル・マイノリティ」とか「セクマイ」という表現もあります。ＬＧＢＴは４つの性的少数者グループの英語の頭文字で、Ｌはレズビアン(Lesbian)、Ｇはゲイ(Gay)、Ｂはバイセクシュアル(Bisexual)、Ｔはトランスジェンダー(Transgender)を意味します。ＬＧＢＴは一般には全人口の４～10％を占めると言われ、２０１５年の電通総研の調査によると日本では7.6％と報告されました。少ないようですが、左利きやＡＢ型の人々の割合とほぼ同じで、結構身近にいるのだとわかるでしょう。ただ、自分がＬＧＢＴだと表明(カミングアウト)している人の数はそう多くはいません。私たちの世界の一員であるにもかかわらず、「自分」を受け入れたり受け入れてもらったりすることは容易ではないのです。

ＬＧＢＴは多様で複雑です。レズビアンとゲイは簡易的に「同性愛者(ホモセクシュアル)」と呼ばれますが、彼らの社会的認知度や経済状態は必ずしも一致していません。レズビアンはエロティックな目で見られることがあり、異性との結婚・離婚を経験し子どもがいて経済的基盤が弱い場合があります。ゲイは逆で、経済的に優位なためにＬＧＢＴでの主張が強いと批判されることもあります。こうした中、２０１５年に「同性愛者パートナーシップ制度」により、同性愛カップルが公的に認知され始めました。渋谷区では条例により世田谷区では要綱により、法的拘束力はありませんが、区内での自治体や企業に婚姻関係に準ずる配慮を求めています。今年に入り、さまざまな自治体がこれを取り入れ始め、賛同する企業も増えています。

一方、両性愛者は性愛対象が自由である反面、特定の性に対して一途ではないと言われてしまうことがあります。社会的認知も進んでおらず、ＬＧＢＴの中では最も理解されていないかもしれません。

トランスジェンダーは、自分の心の性と体の性に違和感を持つ人たちで、自らの性を超越(トランス)したいと願う人たちです。オトコの体に女の心を持つ人(MtF)とオンナの体に男の心を持つ人(FtM)がいます。この中には、「性違和」を強く感じて手術を望む、いわゆる性同一性障がい者(ＧＩＤ:Gender Identity Disorder)がいます。現在では、体を心に適合させる性別適合手術(ＳＲＳもしくは「性別再割当手術」)が可能です。日本では、２００３年に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が成立しました。これまでに性別変更者数は５千人を超え、年間８００人台で増加しているとの報告もあります。２０１４年の北海道文教大学などのグループによると、札幌市内には約２８００人に１人の割合で性同一性障がい者がいると推計されました。ＧＩＤは障がい者として認定され医療保障等の対象となっています。

最近は、自らの性指向(セクシュアリティ)に確信が持てない「クェスチョニング(Questioning)」や性的な関心がない「アセクシュアル(Asexual)」な性的少数者がいることも知られてきました。そして学問領域でも、「ＬＧＢＴ研究」やクイア理論(Queer Theory)が誕生し、性的少数者の価値観に学ぼうとしています。

このように、私たちの世界は多様です。自分が自分らしくありたいという願いを叶えられるのは、私たち一人ひとりです。

北海道大学大学院文学研究科教授
(ジェンダー・セクシュアリティ論)

瀬名波（せなは） 栄潤（えいじゅん）さん

沖縄県出身。英文学博士。米国サウス・カロライナ大学大学院博士課程修了。同大学客員助教授を経て、1996年北海道大学文学部着任。女性研究や男性研究に加え、同性愛者等のLGBT研究・クイア理論の視点から英文学作品や映画を研究教育するだけでなく実社会にも応用・言及している。

多様なセクシュアリティ、多様な生き方

「LGBTの人は身近にはいない」と思い込んでいませんか？札幌に住む4名の方に仕事や家族、生活について伺いました。インタビューをとおして、多様なセクシュアリティをお伝えします。

LGBT INTERVIEW

Xけっちさん

■年代 30代　■居住区 東区
■職業 相談支援員
■セクシュアリティ［ Xジェンダー ］
※Xジェンダー：心の性を男性・女性どちらかと認識していない人のこと。

――セクシュアリティについてどう感じていますか。

身体の性は男性で男性が好きなので、ゲイと言えばゲイですが、あまり性別を意識したことがありません。初対面の人には分かりやすいように、「ゲイです」とか「女装しないタイプのオネエです」と言いますが、きちんと自己紹介するときにはXジェンダーと言っています。

――どのような子ども時代でしたか。

スポーツがすごく苦手で、室内で遊ぶのが好きでした。

初恋の相手は女性ですが、中学のときには何か違うと思い始めていました。女性をかわいいと思ったりもして、高校では女性と付き合ったこともありますが、専門学校に入ってから男性が好きだと確信しました。

――現在、どのような仕事をされていますか。

相談支援員として、さまざまな方からの相談を受けています。仕事はとても楽しいです。職場ではカミングアウトしているため、そのままの自分で働いていますし、仕事内容も自分に合っていると思います。

私は男性とか女性というのを、あまり意識したことがないからこそ気が付くことがあるのではないかと思っています。最近も相談を受けていて、「性別」ではなく「個人」によって違うのではありませんか、という話をしました。何かの枠組みに当てはめようとして生きづらくなっている人が多いのではないかと感じます。

――今後、仕事でやってみたいことや夢はありますか。

無理しない状態で自分らしさを生かした仕事をずっとしていきたいです。例えばDV※のある環境で育ったなどの理由から男性が苦手な子どもとのキャンプに付き添ってほしいという話をいただきました。自分の存在で子どもたちの気持ちが楽になったり、苦手意識が軽減されたりするのであれば、自分らしさはまだまだ生かせるのではないかと思います。

※ドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence）配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振るわれる暴力

――生活についてお伺いします。現在、どのように暮らしていますか。

一人暮らしです。以前、野良猫を保護して、里親に引き渡すボランティアをしていました。今は引き取り手がなかった猫5匹と暮らしています。この猫たちのご飯代を稼ぐために働いているところはあります。

また、母がアパートの隣の部屋に住んでいます。反抗期の頃は不仲でしたが、今はカミングアウトもしていて、一緒にテレビを見ながら、「この人タイプ」「あんた趣味悪いね」「この人かっこいいよね」という会話をすることもあります。カミングアウトのきっかけは、母が性的マイノリティに対して肯定的ではない発言をしたことです。その時に勢いで伝えました。母は、「ああそう」「孫の顔は見られないということだね、しようがないね」と言い、取り乱したりせずに受け入れてくれました。

――将来、どのように暮らしていきたいか、理想のライフスタイルはありますか。

これまで一人で好き勝手にしてきたので、誰かと住むのは苦手だと思います。同棲しているカップルは楽しそうだとは思いますが、自分には想像がつきません。

老後は、性的マイノリティだけではなく、パートナーが先に亡くなった人など、シングルの人が集まって、生存確認し合いながら暮らしていけたらいいと思います。

LGBT INTERVIEW

テルさん

■年代　30代　　■居住区　手稲区
■職業　公務員
■セクシュアリティ［トランスジェンダー　FtM］

※トランスジェンダー FtM：性同一性障がい。体の性は女性で、心の性は男性
※FtM：Female to Male

――どのような子ども時代でしたか。

元気な子で、ずっと自然の中で遊んでいました。動物が好きで、虫が怖いとか気持ち悪いという刷り込みがなく生きてきました。そのため、物心ついたときには自然に関わる仕事がしたいと思っていました。

――現在、どのような仕事をされていますか。

傷ついた動物を保護する仕事をしています。ただ最初は、就職活動で「環境」に関わる仕事がほとんど見つからなかったため、一般企業に就職しました。でも、本当にやりたいものがあるのに違う仕事で自分の時間をとられることに納得がいきませんでした。そのため会社を辞め、英語を学ぶためにカナダに1年留学しました。日本に帰ってきたその月に今の仕事の募集がタイミングよく出ていました。

――憧れていた環境の仕事ですが、やりがいを感じるときはありますか。

やりがいがあるというよりは、なぜ人間は自然に歩み寄れないのかと悩むことの方が多いです。動物は交通事故や感電などの人為的な要因で傷ついているため、理想は「今している仕事がなくなること」だと思っています。

子どもの頃は、自分が環境に関わる仕事をしたら「動物が劇的に保護される、幸せになれる」と思っていました。でも、自分の力は些細なもので、仕事の大部分を占める内容は人との調整です。結局のところ、自然や動物を守りたいならば、人を変える必要があると感じました。

――仕事で大変なことはありますか。

ジェンダーの発言でたまにいらっとすることがあります。

採用のときに、上司と採用関係の人には、「私は性同一性障がいで、治療を進めています」というレジュメを作って渡しました。今は治療が進んで男性だと認識される見た目になりましたが、上司は私が女性だという先入観が抜けません。私と上司と女性4人で出張に行く際、「力仕事もあるのに、男性は俺一人だ」と言う上司に「私がいますよ」と言っても、ピンとこないようでした。

すごく気を遣われて、男性として扱おうと無理に努力されるのも疲れるとは思うのですが、もう少し配慮してほしいです。1対1のときはいいのですが、男性だと認識している職員もいるので、そこは空気を読んでほしいときがあります。

異動の多い職場なので、もともとの性別が女性だと知っている人と知らない人が混ざっています。全員に言えばいいのでしょうが、そこまで自分のプライベートをさらして生きていかなければいけないのか迷います。男性と認識してくれているにも関わらず、女性と伝えることで、混乱する人が出てきてしまうとも思っていて、そこは課題です。

――生活についてお伺いします。現在どのように暮らしていますか。

母と2人で暮らしています。母にはカミングアウトしていますが、昔は言うつもりはありませんでした。「子どもが性同一性障がい」と知るだけで親は傷つくと思い、親が死んでからありのままの自分の人生を生きようと思っていました。

しかし、母が成人式に向けて「振り袖を予約した」と言ったのです。女性用の着物は着たくなくて、「そんなことをしなくてもよかったのに。要らないものに何十万円もかけるなよ」と、きつく伝えました。そうすると、「何で親の愛情を受け入れられないの？親がよかれと思ってやったことに何でそんなことを言うの？」と言われ、20年間溜めたものが一気に出てきて、カミングアウトしました。親の愛情を受け入れられないのではなくて、そもそも女性として生きたくないから振り袖を着ることが嫌なのだという話を泣きながらしたのを覚えています。

――将来、どのように暮らしていきたいか、理想のライフスタイルはありますか。

女性と結婚したいのですが、モテません（笑）。

海が好きなので、留学ができたら海洋関係の大学に行って、海洋哺乳類を守りたいと思っています。定年になったら日本に帰ってきて、2階でバックパッカーの宿を、1階でカフェを開くのが将来の夢です。

LGBT INTERVIEW

美里さん

■年代 30代 ■居住区 東区
■職業 飲食店従業員
■セクシュアリティ［レズビアン］

——どのような子ども時代でしたか。

おとなしい子どもでしたが、弟と一緒に近所の子どもたちとはよく遊びました。外遊びよりは、人形遊びだったり、本を読んだりするのが好きでした。

セクシュアリティについては、中学生、高校生のときに何となく違和感を覚えてきて、大学で自覚しました。学生時代は、大人のロールモデルが周りにいなかったので、レズビアンとして生きていくことに不安がありました。

——現在、どのような仕事をされていますか。

飲食店で接客と調理を担当しています。働いて6年ですが、手際などがまだまだだと思っています。

人間関係は比較的いい職場だとは思っていますが、カミングアウトはしていません。世間話をしていて「おかまっぽい」などの言葉が使われると、レズビアンと一緒に働いていると思ってもいないのだろうなと感じます。

——仕事以外にしている活動や、所属するコミュニティなどはありますか。

市民講座の運営を4～5年しています。最初は講座に参加する側でしたが、今は誘われてコーディネーターやゲストとして発言するようになりました。

また、大学に入ってから、性的マイノリティの団体で活動を始め、※レインボーマーチにも参加しました。驚いたのが、レインボーマーチで中学の同級生に会ったことです。そのときに、同じ教室で机を並べていても、お互いセクシュアリティについて全く気が付いていなかったことや、言い出せるような状況ではなかったことを話しました。

また、家族にカミングアウトはしていないため、実家にレインボーマーチのパンフレットが届いた際に「レインボーマーチって何？」と聞かれて焦ったことがあります。「サークルだよ」とごまかしましたが、気が付いているのではないかと思いました。

ただ、親にはいつかカミングアウトしなければならないと思っています。異性と暮らすという選択肢がないので、結婚の話を出されたら話すタイミングだと思っています。

※レインボーマーチ　2013年まで札幌で行われていた、LGBTが自分たちの存在を社会にアピールするためのパレード。

——理想とする未来や社会に期待することはありますか。

最近、性的マイノリティについてさまざまなメディアで取り上げられていますが、一時のブームで終わってほしくないと思います。また、もう少し気楽に話せる話題になってほしいです。結婚などの選択肢も、同性・異性を問わず、選択肢が増えたらいいですね。

LGBT INTERVIEW

Bみきさん

■年代 30代 ■居住区 中央区
■職業 会社員
■セクシュアリティ［バイセクシュアル］

——どのような子ども時代でしたか。

兄と野球やサッカーばかりしていて、女の子の遊びはしていませんでした。中学生まではどちらの性が好きかあまり意識したことがなかったのですが、高校生になって、初めて同級生の女の子を好きになりました。その子とは両思いで付き合うことになったのですが、親に気付かれて疎遠になりました。距離感が近いことに気付いた母が、相手の親に何か伝えたらしく、相手から突然連絡が来なくなりました。そのことで、女性同士で付き合うのはいけないことなのだと思い、男性と付き合うようになりましたが、何か引っかかっていました。

大学は親から離れたくて道外に出ました。大学時代になると、男性、女性それぞれにいいなと思うことがあって、どちらの性が好きなのだろうと考えこみました。最終的に自分は性別ではなく、人柄で人を好きになるという結論に至りました。ただ大学時代も、他の人には受け入れられないだろうと思って誰にも話せませんでした。

——自分のセクシュアリティを人に話せるようになったのはいつからですか。

働いてからです。最初に働いた会社では、身近な人には隠さず話していました。

そしてその会社で10年近く一緒に仕事をしていた後輩と結婚しました。夫は女性も含め、私が誰と付き合っていたか知っています。大変寛容ですし、理解してくれています。

——現在、どのような仕事をされていますか。

ライフプランナーをしています。最初はソフトウェアの開発などを行っていました。しかし、友達が亡くなったことに大変ショックを受け、いつ死んでも後悔しないようにしたいと思ったことをきっかけに、今の仕事に就きました。今の仕事は、ライフプランが立てにくい性的マイノリティの人の将来や万が一のことを、一緒に考えて準備するお手伝いができる仕事だと感じています。

——仕事以外にしている活動や、所属するコミュニティなどはありますか。

マラソンです。さまざまな人を巻き込んで一緒に走っています。走ることは健康によく、日ごろのストレス解消にもつながります。仕事では万が一に備えたライフプランニングを行っていますが、プライベートでは健康を維持できるように、身体を動かす機会を提供しています。病気になって保険を使うのではなく、病気をせずに生活していくことが私の理想です。

——将来、どのように暮らしていきたいか、理想とする社会はありますか。

将来的には、恋愛対象であってもなくても、友達でも、一緒に暮らしたいと思う人と家族のような関係が築ける社会を創りたいです。

札幌のリアルなLGBTの声

REAL VOICE

札幌で暮らしているLGBTの方にお聞きしました

Question

1. 日常生活・仕事で楽しい、充実していると感じることはありますか？
2. LGBT当事者であることで、日常生活・仕事で困っていることや不安を感じていることはありますか？
3. 理想とする未来や、これからの社会に期待することはありますか？

Sexuality L レズビアン

年代:40代
居住区:中央区
職業:専門職

❶職場でカミングアウトをしているため、同僚と家族の話や生活の話をしている時、社会の一員でいられる気がして充実感があります。同僚の家族のカタチとは少し違っていても、ありのまま話ができることで、生きていていいのだと実感します。

❷店員さんに「奥さん」と声をかけられたり、結婚や出産をしていて当たり前という会話に困ります。ましてや結婚や出産に興味がないとなると、無意識の圧力を感じて人生に不安を持ちます。

❸社会に、LGBTのロールモデルとなるライフプランの提示を期待しています。私たちは性的マイノリティと呼ばれていますが、数的にはマイノリティではない気がします。でも、人生の選択肢や生き方が限られていて、参考にできる例がありません。私たちの存在や生き方を否定しないというのは、そういう人生のロールモデルの提示から始まるのではないかと思います。

Sexuality G ゲイ

年代:20代
居住区:東区
職業:無職

❶好きな人といる時が幸せです♡

❷男性だったら誰でもいい訳ではないです。

❸今の社会に絶望してます。

Sexuality L レズビアン

年代:20代
居住区:西区
職業:会社員

❶仕事においては、自分の中で目標を持って働いていること、日常生活では仕事とは区切りをつけて、時間を活用しているため充実しています。

❷公私共に、自身のことを言うべきか迷う場合があります。仕事では特に、言って自身を知ってもらうべきか、少しでも仕事に支障をきたさないようにすべきか考えます。

❸マジョリティ、マイノリティに関係なく、仕事への意欲や取り組みを評価する社会が望ましいです。

Sexuality T トランスジェンダー

年代:30代
居住区:西区
職業:会社員

❶仲間と遊んでいる時、職場で女性に仕事帰りに誘われた時に充実していると感じます。

❷5年前にSRSを受けて、戸籍上の性別も変更しました。将来的に結婚して、精子提供を受けて妻となった人と子どもを持ちたいと考えていますが、そういった自分を、体のことを含めて受け入れてくれる女性と出会えるのかが不安です。

※SRS:性別適合手術

❸仕事をして社会貢献していくことに、他の人との差はないと思います。一生懸命生きている自分たちが、あれこれ悩まず生きていける社会になればいいと思います。海外のようにSRSを国の補助で受けられる社会になってほしいです。

Sexuality Q クエスチョニング

年代:20代
居住区:西区
職業:会社員

※クエスチョニング:
自分のセクシュアリティが分からない、迷っている

❶仕事が忙しいと、充実していると感じます。

❷部屋を借りる際、「彼女と同棲したい」と言うと、「男女は良いが同性だと無理」と言われ困りました。

❸性的マイノリティでも住みやすい社会になればいいと思います。

Sexuality L レズビアン

年代:30代
居住区:中央区
職業:無職

❶あまり充実していません。もっと早くセクシュアリティに気づき認めることができたら、ライフプランを考えることができたと思います。

❷パートナーと一緒に住む時の続柄や保険の受け取りなど、たった数回しか会わない人たちに自分のセクシュアリティをカミングアウトしたくありません。しかし、偏見、差別なしに社会で生き続けるためには、常につきたくない嘘をつかなければならないので辛いです。

❸異性愛カップルと同等の権利を得たいです。社会から差別発言や偏見が減るといいなと思います。

Sexuality G ゲイ

年代:20代
居住区:中央区
職業:会社員

❶最近仕事が忙しくなったので、プライベートを大事に使うようになりました。

❷以前の職場の上司に「彼女いるの？」「最近いつSEXしたの？」などと聞かれて答えるのに困りました。カミングアウトは嫌じゃないけど、悩みます。

❸同性パートナーが認められたり、LGBTのオープンな流れが続いていけばいいなと思いますが、全ての人がオープンである必要はないと思っています。

Sexuality G ゲイ

年代:30代
居住区:中央区
職業:自営業

❶飲食店店長をしています。休日にお客さまや従業員と食事や交流することが、現在の一番の楽しみです。

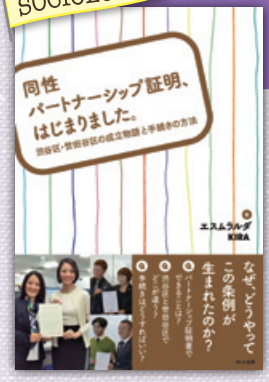
❷現在は特にありませんが、前職では当事者であることを隠していたため、肩身の狭い思いをしていたように思います。

❸この国がLGBTに対して今以上に、差別や偏見がなくなり生活しやすい世の中になることを切に願っています。自分自身が動いてLGBTに貢献していけるよう、努めていきたい所存です。

りぷるのススメ

このページではセンター職員がおススメする本をご紹介します。
あなたのお気に入りになれたら嬉しいです。

SOCIOLOGY



同性パートナーシップ証明、はじまりました。

渋谷区・世田谷区の成立物語と手続きの方法

エスムラルダ　KIRA　著

1,700円（税別）／ポット出版

前半は日本初の「同性パートナーシップ制度」が生まれた経緯、後半はパートナーシップ証明書、宣誓書受領証の交付を受ける時の具体的な手続きについて書かれています。条件や要綱、相談先などの資料も充実しています。

BUSINESS

職場のLGBT読本

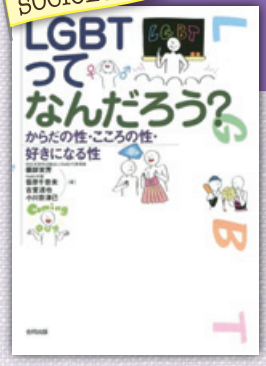
「ありのままの自分」で働ける環境を目指して

柳沢正和　村木真紀　後藤純一　著

2,000円（税別）／実務教育出版

働きやすい職場づくりについて書かれたハンドブックです。職場環境の現状や、職場で抱える問題について触れ、ストレスなくありのままの自分で働ける環境整備のポイントや、実際の企業が行っている取り組みなどを網羅しています。

SOCIOLOGY



LGBTってなんだろう？

からだの性・こころの性・好きになる性

薬師実芳　笹原千奈未　古堂達也　小川奈津己　著

1,800円（税別）／合同出版

LGBTについて分かりやすく解説しています。LGBT当事者の学生の声も掲載されており、日ごろ悩んでいることや、不安に感じていることが分かります。全ての子どもたちが、ありのままの自分を認めて成長するためにどのようにしたらいいのか、子どもに関わる大人は必読です。

COMIC

きのう何食べた？

よしながふみ　著

581円（税別）／講談社

同棲しているゲイのカップルの日常について描かれている漫画です。ゲイが抱える問題や、親との関係、心理描写などが丁寧に描かれています。「食生活」がメインテーマなので、どなたでも読み進めやすく、何気ない生活の中にある幸せを感じさせてくれる一冊です。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか？

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では
男女共同参画を含めた4分野の資料を
閲覧したり借りたりすることができます（ご利用は無料です）。
マークが付いているものは情報センターで
借りることができますので、ぜひ遊びに来てくださいね。

情報センターへのお問い合わせは
011-728-1223
（開館時間 9:00～20:00
貸出時間 9:00～19:45）

札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは相談窓口を開設しています。
相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。
1人で悩まずに、新たな一歩を踏み出すきっかけとしてお話ししてみませんか。

	女性のための 総合相談	女性のための 仕事の悩み相談	女性のための 法律相談	男性のための 悩み相談
日時	月○○木○土 10:00～12:00 ○火○○○○ 15:00～17:00 ※ただし第2火のみ 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○金○ 15:00～17:00 ※平成28年3月31日をもちまして、金曜日は終了いたします。	○○○○金○ ※ただし第1・3・4 第3 金 13:00～15:00 第1・4 金 18:00～20:00	○○水○○○ 18:00～20:00 ○○○○○土 13:00～15:00 ※平成28年3月31日をもちまして終了いたします。
相談員	カウンセラーなど（女性）	産業カウンセラー（女性）	弁護士（女性）	臨床心理士、産業カウンセラー（男性）
相談方法	面談／電話（728-1225）	面談／電話（728-1227）	面談	電話のみ（728-1331）
相談内容	家族のこと、夫婦のこと、恋愛、対人関係など女性の総合的な相談に相談員が面談または電話で対応します。	職場における対人関係、働き方、セクシュアル・ハラスメントなど、女性の仕事についての相談に産業カウンセラーが面談または電話で対応します。	離婚や相続など、法律的な見解が必要な女性の相談に弁護士が対応します。完全予約制なので事前にお電話でご予約下さい。 予約受付電話：728-1255	誰にも打ち明けられず、男性であるがゆえに抱え込んでしまう悩みを男性相談員が電話で対応します。

「働き方改革さっぽろ会議」を開催しました！

元祖イクボスと呼ばれる三井物産ロジスティクス・パートナーズ株式会社代表取締役社長の川島高之さんをゲストにお招きし、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティが重視される時代における働き方について考えることを目的に実施しました。川島さんから、ワーク・ライフ・バランスが必要な理由、また職場において有効なマネジメントやコミュニケーションについてお話しいただきました。企業の経営者、管理職、行政など参加者がそれぞれの立場でできることを話し合い、働き方を通じた企業内や働く人同士のつながりを構築することが提案されました。今後も札幌で「働き方改革」が進むようさまざまなみなさんでつながって取り組んでいきましょう。

お問い合わせ　札幌市男女共同参画センター事業係
TEL：(011)728-1255　Mail：jigyou@danjyo.sl-plaza.jp

編集後記

自分の周りには、LGBTの人はいないと思い込んでいないでしょうか。もしかしたら職場の同僚が、学校のクラスメイトが、ご近所の方が、「左利き」なのと同じように「LGBT」当事者かもしれません。そのように想像することで、自分らしくありのままで生きられる人が増えるのではないでしょうか。

発行月：平成28年3月
発　行：札幌市男女共同参画センター
【指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】
facebook：http://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904
所在地：〒060-0808
札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内
電　話：(011)728-1255　FAX：(011)728-1229
ホームページ：http://www.danjyo.sl-plaza.jp

本誌のタイトル「りぷる」は、英語（ripple）で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。